

〔電気事業〕

令和3年度 経営基本計画推進シート

目標・年度		R2	R3	R4	R5	R6	R7	R元実績	R12目標
【目標1】 運転可能率	目標	－	99.0%	99.0%	99.0%	99.0%	99.0%	98.3%	99.0%
	実績	94.3%	98.9%						
	評価	－	概ね順調						

評価結果（内部）

湯川発電所や熊倉発電所の水車発電機故障による停止など計画外の停止があったものの、年間目標を概ね達成できた。

（算式）

$$\text{運転可能率} = \frac{\text{各発電所の（最大出力} \times \text{運転可能時間）の合計}}{\text{各発電所の（最大出力} \times \text{1年間の総時間）の合計}}$$

今後の方針

保安規程に基づく施設の巡視・点検・停止作業などの維持管理を適切に実施するとし、設備事故事例や再発防止策の水平展開の実施により、設備故障による発電所停止の日数低減に努めていく。

目標・年度		R2	R3	R4	R5	R6	R7	R元実績	R12目標	
【目標2】 水力発電所 リニューアル	目標	－	－	－	－	四万 運転再開	関根 運転再開	－	4か所 運転再開 (100%)	
	実績	四万	法令手続・ 設計・工事 発注	工事発注・ 施工中						
		白沢	設計中	法令手続・ 設計中						
		関根		法令手続・ 入札→中止						
		矢倉	－	－						
評価	－	遅延								

評価結果（内部）

四万発電所は、発注予定工事7件中6件契約、1件入札不調があったものの、概ね計画どおりである。

白沢発電所は、FIT認定の取得と実施設計を進め、計画のとおり順調に進捗した。

関根発電所は、FIT認定を取得したものの、更新工事の入札が中止となり、計画より遅延した。

今後の方針

四万発電所は、令和4年度中に主要工事1件を発注し、令和6年度末の運転再開を目指し工事を進める。

白沢発電所は、令和4年度中に実施設計委託を完成させ、主要工事2件を発注する。

関根発電所は、令和4年度中に主要工事1件を発注する。予定運転再開年度を見直す。

矢倉発電所は、機器更新から間もないため、リニューアル着手を見合わせ、天狗岩発電所のリニューアルを先行することを検討する。

目標・年度		R2	R3	R4	R5	R6	R7	R元実績	R12目標	
【目標3】 新規発電所 の建設	目標	-	-	-	-	霧積 運転開始	-	-	5か所 運転開始	
	実績	霧積	工事発注	設計中						
		地点 ①	流量観測	流量観測						
		地点 ②	流量観測	流量観測						
		地点 ③	流量観測	流量観測						
		地点 ④	流量観測	流量観測						
評価	-	順調								

評価結果（内部）

新規発電所1か所目の霧積発電所について、令和2年度に発注し、令和3年度は設計を進めるとともにFIT認定を取得という計画のとおり、順調進捗した。

残り4か所の新規発電所の建設に向け、計79地点の調査を実施、8地点の流量観測を継続している。

今後の方針

残り4か所の新規発電所の建設に向けて調査を継続し、有望な地点から開発を行っていく。

経営計画委員会評価（外部有識者）

--

〔工業用水道事業〕

令和3年度 経営基本計画推進シート

目標・年度		R2	R3	R4	R5 ※うるう年	R6	R7	R元実績	R12目標
【目標1】 年間契約水量 (千m ³) ※()は、R元実績 に対する増加水量 を示す。	目標	－ －	72,902 (+575)	72,902 (+575)	73,102 (+775)	72,902 (+575)	74,907 (+2,580)	72,327 (0)	75,092 (+2,765)
	実績	72,459 (+132)	72,614 (+287)						
	評価	－	遅延						

評価結果（内部）

令和3年度の年間契約水量は、年度途中に2事業者との契約水量が減量となったことから、増量目標の達成に届かなかった。

〔達成率 287千m³(R3実績-R元実績)÷575千m³(R3目標-R元実績)=49.9%〕

今後の方針

適正規模での施設更新を図りつつ、新規契約の獲得、既受水企業の増量などにより、特定契約を含めた契約水量の増量を目指す。

目標・年度		R2	R3	R4	R5	R6	R7	R元実績	R12目標
【目標2】 渋川工業用水道 の更新・改良 (浄水処理能力 の耐震化率) ※()は、耐震化率 を示す。	目標	－	1号 沈澱池 完成 (0%)	配水池 実施設計 完了 (0%)	配水池 着工 (0%)	配水池 完成 (0%)	取水口 実施設計 完了 (0%)	3号 沈澱池 完成 (0%)	更新・改良 完成 (100%)
	実績	2号 沈澱池 完成 (0%)	1号 沈澱池 完成 (0%)						
	評価	－	順調						

評価結果（内部）

令和元～3年度の3ヶ年で計画した沈澱池の更新・改良工事は、令和3年度に1号沈澱池の耐震補強工事が完成し、3池全ての耐震化が完了した。

なお、浄水処理工程の一部である沈澱池の耐震化は全て完了したが、その前工程である取水口、後工程である配水池等の耐震化が完了していないため、浄水処理能力としての耐震化率は0%のままである。R12年度の耐震化率100%に向けて、計画どおり更新・改良工事は進捗している。

今後の方針

令和4～6年度の3ヶ年で配水池の、令和7・8年度の2ヶ年で取水口の、令和12年度に現場操作室の更新・改良工事を実施し、浄水処理能力の耐震化率100%を目指す。

令和4年度は、配水池の耐震化に向けた実施設計を行う。

目標・年度		R2	R3	R4	R5	R6	R7	R元実績	R12目標
【目標3】 管路耐震化率	目標	—	【東毛】 石田川橋 水管橋 完成 (42.7%)	【渋川】 吾妻川 横断工 調査完了 (42.7%)	【渋川】 吾妻川 横断工 基本設計 完了 (42.7%)	【渋川】 吾妻川 横断工 実施設計 完了 (42.7%)	【渋川】 吾妻川 横断工 用地取得 完了 (42.7%)	【東毛】 東ルート 完了 (39.6%)	管路耐震化 完了 (100%)
	実績	【東毛】 石田川橋 水管橋 着工 (39.6%)	【東毛】 石田川橋 水管橋 完成 (42.7%)						
	評価	—	順調						

※()は、耐震化率を示す。

評価結果（内部）

令和元～3年度の3ヶ年で計画した東毛工水の管路耐震化工事は、令和3年度に石田川橋水管橋耐震補強工事が完成し、西ルート（契約水量5,990m³/日）の耐震化が完了した。

耐震化済みの管路の給水量は、令和元年度までに完了済みの東毛工水の東ルート（78,546m³/日）と合わせて、84,536m³/日となり、工業用水道事業全体の契約水量（198,156m³/日）に対する管路耐震化率は42.7%となった。
〔管路耐震化率 = (84,536m³/日) / (198,156m³/日) = 42.7%〕

今後の方針

令和4～11年度の8ヶ年で渋川工水（113,620m³/日）吾妻川横断工の更新・改良工事を実施し、管路耐震化率100%を目指す。

令和4年度は、吾妻川横断工の複線化に向けた調査業務を行う。

経営計画委員会評価（外部有識者）

〔水道事業〕

令和3年度 経営基本計画推進シート

目標・年度		R2	R3	R4	R5	R6	R7	R元実績	R12目標
【目標1】 年間協定水量 (千m ³)	目標	—	65,536 (0)	65,536 (0)	66,182 (+646)	66,467 (+931)	66,932 (+1,396)	65,536 (0)	69,256 (+3,720)
	実績	65,536 (0)	65,536 (0)						
	評価	—	順調						

※()は、R元実績
に対する増加水量
を示す。

評価結果 (内部)

令和3年度は、県央第二水道の令和5～7年度(3ヶ年予定)の年度別使用水量の協定見直しに向けて、受水市町と水量増量の協議・調査を実施した。

今後の方針

県央第一水道と県央第二水道の料金格差是正のため、県央第二水道の更なる増量に向けて受水市町と協議を行い、使用水量を増量した変更協定を締結する。

目標・年度		R2	R3	R4	R5	R6	R7	R元実績	R12目標
【目標2】 県央第一水道の 更新・改良 (浄水処理能力 の耐震化率)	目標	—	2系1列 完成 (53.9%)	2系2列 完成 (78.9%)	1系 着工 (78.9%)	1系1列 完成 (100%)	1系2列 完成 (100%)	3系 完成 (29.0%)	更新・改良 完成 (100%)
	実績	2系 着工 (29.0%)	2系1列 完成 (53.9%)						
	評価	—	順調						

※()は、耐震化率
を示す。

評価結果 (内部)

令和2～4年度の3ヶ年で計画した2系浄水処理施設の更新・改良工事は、令和3年度に2系1列(浄水処理能力40,000m³/日)の耐震補強工事が完成した。

耐震化済みの浄水処理能力は、令和元年度までに完成済みの3系(46,250m³/日)と合わせて、86,250m³/日となり、県央第一水道の浄水処理能力(160,000m³/日)に対する耐震化率は53.9%となった。

〔耐震化率 = (86,250m³/日) / (160,000m³/日) = 53.9%〕

今後の方針

引き続き2系2列(40,000m³/日)の耐震補強工事を実施する。

経営計画委員会評価 (外部有識者)

〔団地造成事業〕

令和3年度 経営基本計画推進シート

目標・年度		R2	R3	R4	R5	R6	R7	R元実績	R12目標
【目標1】 産業団地 造成面積 (ha)	目標 (累積)	—	23 (0)	20 (43)	29 (72)	7 (79)	47 (126)	—	250
	実績	19	23.7						
	評価	—	順調						

評価結果（内部）

千代田第二工業団地及び明和入ヶ谷南工業団地の造成工事を完成させ、町公社へ引渡し、目標どおりの進捗となった。

今後の方針

企業誘致推進本部により選定された開発候補地の早期造成を計画的に推進し、分譲地の安定供給を目指す。

目標・年度		R2	R3	R4	R5	R6	R7	R元実績	R12目標	
【目標2】 新エネルギー 活用住宅モデル 事業の実施	目標	—	システム検討、工事実施				第1期分譲開始		—	30区画 以上の分 譲開始
	実績	システム 検討	システム 検討							
	評価	—	概ね順調							

評価結果（内部）

経営戦略課・発電課・団地課合同のプロジェクトチームにより「板倉NTにおける地域MG事業計画及び水素利活用計画作成業務」の受託者と検討を重ね、基本的なエネルギー需給スキームを策定した。

今後の方針

今後、造成工事を担当する団地総合事務所と連携し、街区デザインに着手する。
また、令和5年度の方譲開始を目標に、住宅事業者のヒアリングを通じ、分譲価格や分譲形態について検討する。

経営計画委員会評価（外部有識者）

〔施設管理事業〕

令和3年度 経営基本計画推進シート

目標・年度		R2	R3	R4	R5	R6	R7	R元実績	R12目標
【目標】 賃貸ビル 入居面積 (㎡)	目標	—	4,073	4,073	4,114	4,114	4,114	3,686	4,232
	実績	4,073	4,100						
	評価	—	順調						

評価結果（内部）

令和3年度は新規入居・退去はなかったが、既入居団体の契約面積の増加・減少があり、入居率は96.9%となった。

今後の方針

計画的に設備等の更新工事を行い、利用者の満足度を高めることにより退去を防止するとともに、積極的な広報活動により新たな入居者の確保に努め、入居率100%を目指す。

目標・年度		R2	R3	R4	R5	R6	R7	R元実績	R12目標
【目標】 ゴルフ場 利用者数 (人/年) ※1ゴルフ場 あたり	目標	—	45,000	45,000	45,000	45,000	45,000	46,286	45,000
	実績	45,581	55,034						
	評価	—	順調						

評価結果（内部）

令和3年度はコロナ感染拡大に伴う休業がなかったほか、感染対策の徹底、ワクチン接種の普及などの社会情勢、ゴルフの全国的な復調を背景に、利用者数は目標を大きく上回った。（前年度比121%）

今後の方針

引き続き、業界のガイドラインに則った適切な感染防止対策を講じるとともに、各指定管理者と協力してゴルフ場の効率的な管理運営を行う。

経営計画委員会評価（外部有識者）